



当院には雛段飾りが二つ、飾り方も二通りございます。

関西 向かって右側が男雛で左側が女雛

日本には古くから「左方上位（左側の方が位が高い）」という考え方がありました。ですから左大臣と右大臣では、左大臣の方が格上になります。雛人形は平安貴族の姿をしていますが、平安時代の帝は、妃の左側（向かって右）へ座っていました。京都と関西の一部では、そのしきたりに従って、内裏雛を並べています。

関東 向かって左側が男雛で右側が女雛

現在の皇室では、天皇は必ず皇后の右側（向かって左側）に立たれます。座られる場合も右側です。この位置の取り方は、西洋式のルールにのっとっています。明治時代の終わり頃から日本でも西洋に準じて、このルールが取り入れられました。

なお、二つの雛段飾りの間には「市松人形（筑後地方ではどんたさんと呼びます）」、天井から「さげもん」（柳川）を飾っております。

女の子の健やかな成長を祈るひなまつりとともに、当院を訪れる皆さまの健康をお祈りしております。